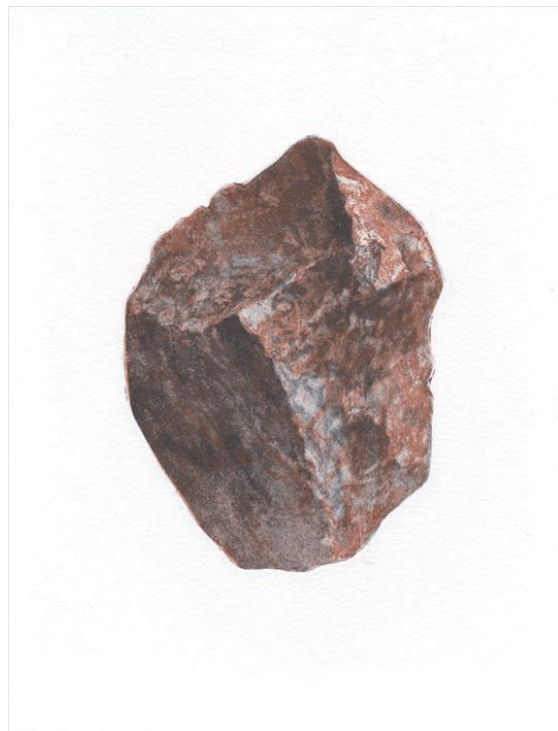


水を引く
draw water

KUNST ARZT では、2度目となる池田聡子の個展を開催します。池田聡子は、「石」をモチーフに、銅版画で非現実の“石”を表現するアーティストです。一見、「石」をリアルに表現した様に見えますが、銅版画には、イメージを描いた銅板を腐蝕させるプロセスがあり、そこには作者の意図や“自然の流れ”が介入します。本展は、これまでのようにアーティストが「石」を選ぶのではなく、他人に委ねることで、自身の美的価値観に囚われないという意図もあります。

(KUNST ARZT 岡本光博)

助成：石井慶治財団



The still life #6

2023

アクアチント、ディープエッチング/ハーネミュレ
150×200mm

経歴

1997年 京都府出身
2022年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科
絵画専攻版画 修士課程 修了

個展

2023年 並列する流れ (KUNST ARZT/ 京都)

グループ展

2019年 「PORTO DI STAMPA2019 圧力の湊」 (アートゾーン神楽岡 / 京都)
2019年 第7回 PORTO DI STAMPA - 京都芸大版画8人展 - (B-gallery/ 東京)
2019年 第44回全国大学版画展 (町田市立国際版画美術館 / 東京)
2020年 第8回 PORTO DI STAMPA - 京都芸大版画6人展 - (B-gallery/ 東京)
2020年 「PORTO DI STAMPA2020 約束と版」 (アートゾーン神楽岡 / 京都)
2021年 第46回全国大学版画展 (上田市立美術館 / 長野)
2022年 in the wave (同時代ギャラリー コラージュブリュス)
2022年 第8回卒業成果展 (AXIS ギャラリー / 東京)
2023年 Infinitely expanding printmaking expression- 無限に広がる版画表現 - (芝田町画廊 / 大阪)
2024年 Printmaking II 刷りとその解体 (ギャラリーマロニエ ギャラリー4 / 京都)

2025年2月11日 (火) から16日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

* 展覧会記録冊子発行予定
A5 スクエアサイズ、16 ページ、
雁木聡さん
(高校教員、翻訳家)
によるテキスト。

水を引く
draw water

展覧会コンセプト

私の流れの中に、他の流れから水路をひく。
私だけではそこにあるはずのないものが流れ込んでくる。
そうすると、私のものになるまで、時間がかかる。
自然の中に流した時間が長いほど、石の角はとれていき、私の手に馴染むようになっていく。

アーティスト・ステートメント

拾った石の模様や形をもとに、銅版画の持つ偶発性に委ねて作品を制作している。
私にとって銅版画とは、銅板を腐蝕する行程があることや描画材の滲みを利用出来ることから、意図しない現象が大きく介入する技法であると考えている。
銅版画で石を描くことは、絶えず変化するすべての物質の流れに沿いながらも、現実の石にはない作者の意図を織り込んだイメージを作ることが出来ると考え、制作している。



ある石、ある観測点/a stone,the ovservation point(1-12) 2023 アクアチント/ハーネミュレ 各200×200mm



dark #2
2023
アクアチント、ディープエ
ッチング/ハーネミュレ
400×658mm



light #3
2023
アクアチント、ディープエ
ッチング/ハーネミュレ
330×480mm